

スピーカー: ジャールカンド反放射能同盟

インドのジャールカンド州ジャドゥゴダを拠点に活動する団体。何十年にもわたってウラン採掘に反対し、ウラン採掘がもたらす健康や環境への影響への理解を高め、放射線被害を受けた方のために正義を求めてきた。2005年に「核のない未来賞」を受賞。

インドのジャールカンドよりこんにちは。ご存知の通り、私たちはインド・ジャールカンド州の反核団体です。ここで、数十年にわたりウラン採掘の反対運動を行っています。健康や環境への被害について声をあげ被害者のために正義を求めてきました。

みなさんご存じの通りインドは地理的に非常に重要な場所にあります北の国境付近では中国軍とインド軍が戦争に近い状態にあります。去年だけでも、両国側に多くに負傷者がでました。現在も、非常に寒いこの冬の過酷な環境下においても国境線の両側で兵士が増員されています。また、中国側が核戦力を増強し、核ミサイルサイロをつくっているとの報道もあります。さらに、西側の国境付近ではアフガニスタン、パキスタン、イランが不安定な状態にあります。南側ではこれまた中国がスリランカのインド洋で港を建設しています。インドでは過去7年間ヒन्दゥー・ナショナリズムの右派政党が政権を握っています。彼らの攻撃的な政策とプロパガンダにとっては非常に好都合な状況です。ジャールカンド州でウラン採掘企業が行っている不正行為に対して声をあげる政党はいません。さらに、大きな力を持つウラン会社とそれを支える強力な圧力団体の無限なマンパワーと経済力に、私たちの力はかないません。

しかし私たちには文化的伝統という武器があります。私たちは何十年にもわたりあらゆる方法を使って抵抗し、正義を求めてきました。路上でのデモ、上級裁判所への控訴、国際会議への参加、国際機関への調査依頼など、たくさんの活動を行いました。しかし、成功したものはありません。先祖伝来の土地を守ることはできてもこの地域で苦しむ人たちのために正義を得ることはできませんでした。会社側は職員が高齢になればまた若手を雇い不正事業やプロパガンダの拡散を続けます。その一方で、私たち市民社会側ではコミュニティーも若者も大きな力に対抗するために十分な情報や資源を持っていません。世界中で多くの先住民を含むウラン採掘の被害者が集まれるグループやプラットフォームが必要です。草の根運動を強化するための戦略について話し合い、お互いの経験について共有できる場が必要です。

先ほども申し上げた通り、健康への影響などに関する新しい研究や調査結果について私たちは十分に知る機会がありません。なぜならば、インドではどの研究所も政府に資金提供をされているか、または真実を伝えることを恐れているからです。なぜ私たちはたくさんの謎の病気に苦しめられているのか、その訴えを裏付けるための科学的なデータがないので最終的に私たちに残され武器は辛い、悲しい経験だけなのです。そして、私たちは声をあげることもできないただの傍観者です。ウラン会社は私たちのコミュニティの脆弱性につけこむのです。例えば失業率や雇用の少なさ。会社側は建設作業員などの臨時雇用者として私たちを雇います。被ばくがある一定量に達すると捨てられ、新しい人が雇われます。健康調査も健康診断もありません。記録がないので、健康状態や病気などについて会社側を訴えることができません。大きな力を持つウラン会社が用いるこのような戦略やプロパガンダとそれを支える強力な圧力団体に勝つことはできません。

しかし私たちには「経験」という武器があります。それを世界に伝えるというツールがあります。したがって、私たちの証言を全国に、そして世界にも広める必要があります。今のようなデジタル通信の時代ならお互いの経験を定期的に共有し、将来的なアクションのための作戦をつくる方法があります。また、インドの現在の右派政権下では草の根運動に対する攻撃が



日々増えています。対抗するためには現状に対する理解を深め、団結する必要があります。

私たちの経験を共有する機会をいただきありがとうございました。

おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースボートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日（日本時間）に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースボート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>